

平成 28 年度 第 4 回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成 28 年 11 月 16 日（水）18:30～20:15

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	8 名…柏崎、澤田、岩堀、神津、島田、妻沼、吉田、高橋
欠席者	3 名…井上、西條、永野
事務局	2 名…市民生活課 山中、安陪
指定管理者	2 名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 高橋、山本
傍聴者	0 名

- 配布資料
- 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
 - 2 夏の市民活動・ボランティア体験 2016 報告
 - 3 のたろんフェア 2017 参加受付団体一覧・運営ボランティア募集チラシ
 - 4 運営懇話会構成員の改選について
 - 5 久里浜・追浜市民活動サポートセンター利用者アンケート結果
 - 6 サポートセンターデータベース登録・新規異動団体

1 報告事項

1- (1) 利用状況・利用者の声について

指定管理者及び市民生活課から資料 1 に沿って報告した。

(指定管理者：汐入について)

- ・利用者数・利用団体数ともに昨年度並み。ここ数年は下半期に利用者が増加する傾向がある。
- ・印刷機の利用実績が減少している。利用者数にそれほど変動はないため、利用の仕方が変わってきていると考えられる。5 円コピーやネット印刷などの登場により安価できれいに仕上げられるものができたためか。今後アンケートなどを実施して印刷機のあり様を検討していきたい。
- ・利用者の声でご意見をいただいたカラー印刷機については、過去に検討したが費用と手間の面から導入を見送った。現在は性能もよくなっているため、次のリース更新の際に再検討したい。
- ・コピー機については微増だが、久里浜・追浜ほどの伸びではない。ソーター機能がついていれば多少使い勝手がよくなるか。

(市民生活課：久里浜・追浜について)

- ・コピー機利用が昨年度比急増。活発に利用されていることがうかがえる。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・枚数によって印刷機を使用するほどではないことが多く、400～500 枚であればネット印刷を利用したほうが格段に安価でできる。
- ・カラー印刷機とカラーコピー機では、まだ印刷機のほうが安価か。(指定管理者)
- ・パソコンを使える方であれば事務所などでデータのやりとりだけでできることは魅力だと思われる。

- ・時代の流れとはいうものの、予算が限られた団体はもっぱら白黒印刷機を利用しているが。
- ・久里浜・追浜のコピー機伸び率が大きい。（指定管理者）
→機器は変えていない。考えられる理由としては、昨年度懇話会にてご提案いただき行政センター・コミュニティセンターに利用促進ポスターを掲示したこと。（市民生活課）
- ・サポートセンターで会報等の原紙を作成するが、近くに5円コピーがあるため印刷はそちらを利用することが多い。
→サポートセンターは団体を支援する場所であり収益をあげることが目的ではないが、利用団体の考え方が変化してきているということには対応していきたい。（指定管理者）
- ・印刷機の料金は原価か。
→リース料と消耗品代を勘案し、できるだけ安価に、とは考えている。来年度の途中でリース期間満了となるため再リースにするなどすれば料金を抑えることもできるか。また、コピー機はサイズに関係なく一律料金としているため見直す余地がある。（指定管理者）

1－（2）夏の市民活動・ボランティア体験 2016 報告

指定管理者から資料2に沿って報告した。

（指定管理者）

- ・大学への出張PR、FMブルー湘南でのPR、ポスター人気投票「P-1 グランプリ」など様々な手段で広報を行った。P-1 グランプリへの参加・投票数はどちらも昨年度より増加し、趣向を凝らしたポスターが並んだ。
- ・9月16日に参加団体報告会で各団体から活動報告をしていただいた。特徴的だったのは、赤十字講習会に手話サークル団体メンバーが参加し講習会内容の手話通訳を行う、というコラボレーションができたこと。災害時の備えとしてお互いの団体にとって有益な活動となった。
- ・報告会終了後には団体間で名刺交換を行うなど新たな活動を広げる場としても有効に活用されている。
- ・ボランティアセンター・生涯学習センターでも活発な活動がされたと聞いている。今後もお互いの広報ルートを共有し、協力して事業を行っていきたい。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・県立保健福祉大学の出張PRに参加。まず自分たちのことを知ってもらうことを目的としていたが、実際に参加してもらうまでにはまだ長い道のりだと感じた。
- ・県立保健福祉大学・関東学院大学・横須賀学院高校などの学生に多く参加していただいた。口コミでイベントボランティアの募集を広めてもらえていることが強みか。
- ・報告集をみると、ボランティア参加者数が0名の団体が多くみられる。うまくボランティアを集めた団体のノウハウを共有できれば。
→イベントや講習会に参加してもらうだけでよいという団体は0名となっている。（指定管理者）
- ・活動によっては、すぐにボランティアの数に数えられない場合もあるのでは。表現を検討してみても。
→「市民活動・ボランティア体験」であるため、市民活動体験を実施している団体も一律に「ボランティア0名」と表記するのは好ましくないかも。（指定管理者）
- ・市民活動体験者が何名、ボランティア体験者が何名とすればよいのでは。

1－(3) のたろんフェア 2017 中間報告

指定管理者から資料3に沿って報告した。

(指定管理者)

- ・11月15日に参加団体一次募集締め切り、ミニ展示を除いたすべてのカテゴリで定員に達した。二次募集はミニ展示のみ。現在85団体で、多少増加する見込み。新規団体も11団体と多い。
- ・ステージ・イベントなどは特に申し込みが多かったが、どのカテゴリにも参加できない団体がないよう、実行委員長立ち会いのもと調整を行った。
- ・資料の用意はないが、初の試みとしてSNSを使った広報を展開していく。のたろんフェア実行委員会でFacebookページを立ち上げた。一般公開したのは先週であるので、いいね!や情報拡散に協力をしていただきたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・のたろんフェアへの参加について。参加受付団体一覧に入っているが。
→市では関知していない。フェア実行委員会事務局の配慮では。(市民生活課)
- ・一昨年度は市がパネルを作成してくれた。昨年度は、パネル作成はせず、参加できる方のみ懇話会周知のためのバッチをつけて宣伝した。今年度は市で何かしてくれるのか。
→懇話会メンバーからの自主的な提案により参加いただいている。市が何かするというのは違和感がある。(市民生活課)
- ・サポセンのイベントで懇話会として何もしないというのは好ましくない。
- ・今年度末に懇話会構成員の改選があるため、懇話会の周知をすべきでは。
- ・構成員は自己推薦であれば、新しい方にアピールすることは大事では。一昨年度に市が全てやってくれたので、自分自身も何かやらなければと思った。
→改選の時期であるため、新しい応募者を増やすための要素を盛り込ませていただければ、市でパネルを作成する。作成したパネルの活用方法は懇話会で検討してほしい。(市民生活課)
- ・市で作成してもらえらるなら、当日は参加できるメンバーがバッチを着用し運営ボランティアとしてお手伝いする。

1－(4) 運営懇話会構成員の改選について

市民生活課から資料4に沿って報告した。

(市民生活課)

- ・現在懇話会の構成員は要綱で15人以下と定められており、現構成員は27年度に11人でスタートした。募集の段階では13人を予定していたが、募集人員に達しなかったため、補充を行わず現人数で運営してきた。懇話会で議論する内容が多岐に渡ってきていることや、仕事をされている方が多く欠席が多い回も見受けられることから、今回の改選で15人に増やす予定。
- ・市民生活課長を除く構成員は全員公募であり、これまで会の継続性を保つため座長と座長職務代理者を除く構成員を改選していたが、27年度第4回懇話会にて、座長・座長職務代理者も含め全員改選とすることとなった。よって、今回は市民生活課長を除く全員公募とする。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・自分のような社会人は時期により仕事量に差があり、毎回参加することが難しいことがある。改選にあたっては、生涯現役を志す方や時間に余裕のある方を採用すべきでは。
- ・応募用紙があるのか。のたろんフェアで懇話会メンバーが配布してもよいのでは。
→12月下旬頃には作成する予定。宣伝していただければありがたい。(市民生活課)
- ・在任期間は6年を超えないものとあるが、連続でなかったとしても合計6年を超えてはならないというところでよいか。(指定管理者)
→そのとおり。専門性を持っている学識経験者等で他に適任者がいないなど、やむを得ない場合を除き共通のルールとなっている。(市民生活課)
- ・構成員全員にとって都合のよい時間帯に開催するのは難しい。
- ・すでに3期在任した方を知っておかないと再度声をかけてしまうかもしれない。
→指定管理者へ情報提供する。(市民生活課)

1－(5) 久里浜・追浜サポートセンター利用者アンケート結果について

市民生活課から資料5に沿って報告した。

(市民生活課)

- ・前回の懇話会にて予約制の導入について意見をうかがったところ、今すぐ予約制にしなくてもよいのではという意見が大半であった。一方で、実際の利用者の声を聞いてみてはどの意見もいただいたため、利用者アンケートを実施した。
- ・アンケートの結果、予約制をとり入れたほうがよいという方と、現在のままがよいという方の割合がほぼ同数であった。今すぐ予約制を導入すると、半数の方にとってはデメリットとなる。予約制としなくても利用者が使いやすくなる他の方法を検討していきたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・「2(2)②一部予約」の回答の「その他」とは。
→混雑期のみ予約制とする、というもの。(市民生活課)
- ・割合については要検討だが、すべてを予約制にするのではなく、特定の時間や特定のエリアのみ予約制としてはどうか。
- ・汐入のサポートセンターのミーティングスペースは前月の1日から予約できるが、会議日程を月の後半に設定しないと会の運営上、会報の掲載などに間に合わないことがある。一概に予約といっても方法はさまざま。
- ・複数台あれば、そのうちの1台は予約なしでも使えるなどできればよい。
- ・理想をいえば、予約もできて、ふらっと行っても使えることが好ましい。
- ・1回の使用時間の上限はあるのか。目安時間を示してもよいのでは。
→特に設けていない。参考にしたい。(市民生活課)

2 議題

2－(1) データベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から資料6に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した。

(指定管理者)

- ・資料中、横須賀国際交流言語養成クラブから横須賀国際交流清鈴会までの6団体はすべて同じ方が登録している。詳しく話をうかがったうえで判断した。これから仲間を集めてやっていこうということであれば、1人でも登録は可。また、同好会・愛好会は、仲間内での活動であれば公益性は認められないが、名称に関わらず活動内容が外に向けたものであれば公益団体である。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・1つの団体のなかで枝葉として複数事業を行えばよいのでは。
→アドバイスはした。ご本人の熱い希望があった。サポートセンターとしては支援をし、見守ってきたい。(指定管理者)

連絡事項

(事務局)

- ・第5回運営懇話会は平成29年2月22日(水)18:30～サポートセンターにて開催予定。

以上